

鳥取県のコロナウイルスを探る

COVID-19のデータを見ると、感染者数が最も少ないのが鳥取県だが、この県のことをあまりよく知らないので勉強がてら掘り込んでみることにした。

2021年6月15日のデータによれば、鳥取県の感染者数累計は466人、人口千人あたりの感染者数は0.83人で、全国平均の8分の一に留まっている。

都道府県	感染者数 (人)	人口(千人)	人口千人あたり 感染者数(人)	面積 (K m ²)	人口密度 (人/K m ²)
鳥取県	466	573	0.81	3,507	163
全国	777,557	127,094	6.11	377,974	336

面積は3,507K m²で、47都道府県中41位だが、45位の東京都の約1.6倍ある。

人口は573千人で、全国で最も人口の少ない県である。このような数値の異なりが感染者数においても関係しているのではないかと考えて、さらに突っ込んでみることにした。(人口は平成27年国勢調査の数値を引用)

<1> 鳥取県はどんな県か

次に鳥取県の基本情報(人口と面積)を市町村別に分解してみた。

市町村		人口(千人)	面積(K m ²)	人口密度(人/K m ²)
市部	鳥取市	194	765	254
	米子市	149	132	1,129
	倉吉市	49	272	180
	境港市	34	29	1,172
	市部小計	416	1,198	347
市部以外		157	2,309	68
鳥取県合計		573	3,507	163

人口の70%以上が市部(鳥取市・米子市・倉吉市・境港市)に住んでいる。特に鳥取市と米子市への人口の集中が顕著で、全県人口の67%を占めている。

県庁所在地である鳥取市は県の東端で兵庫県との県境近くにあり、倉吉市は東西に広がる県の中央部、米子市と境港市は西端の島根県との県境にある。米子市・境港市は、どちらかと言えば島根県の「松江市を中心とし



た経済圏」に属するような感じがする。

人口密度で比較してみると、米子市と境港市が1K㎡あたり千人を超える密度であるが、鳥取市(254人)と倉吉市(180人)とさほどの密度にはなっていない。隣の島根県の都市別人口を見るとわかるように、県境の松江市を中心とした経済圏に偏った人口集中が感じられる。

また市部以外の地域の人口密度は1K㎡あたり68人と、北海道と同程度の密度になっている。

新幹線は通っていない、鉄道のルートとしては、日本海側を走る山陰線と、中国山地を越えて南から鳥取市へ入ってくる因美線、米子市へ入ってくる伯備線の二つのルートがある。

また高速道路も同じように、鳥取市に入ってくる鳥取自動車道と米子市に入ってくる米子自動車道の二つが南から山を越えて入ってきている。鳥取と米子を結ぶ山陰自動車道はまだ全線開通には至っていない様子。

空港は、鳥取市の日本海岸にある鳥取空港と、境港市にある米子空港の二つ。

様々なインフラの整備具合をまとめてみると、「鳥取市と米子市(松江周辺)の二つの拠点を中心とした人や物の動きが見えてきた。

<2> 鳥取県で発生した感染者数

2021年6月15日時点での新型コロナウイルスの感染者数を市町村別に見ると、下表のようになっている。

市町村		感染者数 (人)	人口千人あたりの 感染者数(人)	人口密度 (人/K㎡)
市 部	鳥取市	130	0.67	254
	米子市	50	0.34	1,129
	倉吉市	23	0.47	180
	境港市	23	0.68	1,172
	市部小計	226	0.54	347
市部以外		79	0.50	68
居住地非公表		143		
県外在住者		18		
鳥取県合計		466	0.81	163
<参考>全国		775,208	6.13	333
<参考>東京都		166,369	12.04	6,364

感染者数466人の地域別内訳で見ると、人口では全県の7割を占める市部の感染者の数は全県の約半数にしかなっていない。しかし、市部の感染者の約6割は鳥取市であり、人口密度が高いわけでもない。

人口千人あたりの感染者数で見ると、米子市・倉吉市がやや少なめではあるが、市部と市部以外とで極端な差はないように感じる。また他県のデータを眺めて見ると、秋田県・島根県に続いて第三位の少なさになっている。人口の絶対値や人口密度などの人の流れに影響しそうな数値との間に単純な関係性が見つからないという、他の県とは異なる表情をしている。

<3> 鳥取県の感染者の感染ルート

鳥取県で初の感染者が確認されたのは2020年4月10日、鳥取市在住の60歳の男性だった。

鳥取県のホームページ上で、これまでに確認された感染者の属性が公開されていた。このデータを見ると、一次感染の具体的な内容は秘されているのでわからないものが多いが、二次感染の経緯はかなりはっきり掴むことができる。4月10日に確認された第1号の感染者から第50号の感染者までのデータを眺めてみた。

感染者-1の感染源は公開されていなかったが、感染者-2は「県外感染者の接触者」で、隣の島根県松江市で発生したクラスターによるものだった。

感染者-3,4も感染源については表記がなかった。感染者-5は東京在住の30歳代の男性で、県外で感染者

と接触があったことによるものだが、詳細はわからない。

50人のデータの内、35人は「感染者との接触または濃厚接触」によるものであることがわかった。また、その中に感染者の入院先の医療従事者が1人含まれていた。

また、50人の内13人は「県外から建設工事のための転入者」で、「県外で感染者と接触」した一名が引き金となり、約一週間の間に次から次へと広がっていき13人になった。(添付付録:鳥取県の感染者の感染ルート)

このデータから一次感染の状況はわからないが、二次感染・三次感染と拡散していく経過がわかり、「蟻の一穴」が堤防決壊に至るような恐ろしさを感じた。

この間ほぼ毎日開かれていた県知事の定例記者会見の発表資料と動画が公開されていたので、いくつかを拾い読みしてみた。発覚した感染事例の紹介と、そこから見た「県民に徹底していただきたい事項」の説明がわかりやすいものだった。発生件数が少ないからできる「丁寧な追跡調査」であり、「的確なフィードバック」なのかもしれない。さらに、「行政からの通達に従順な県民性」があるとしたら・・・と想像するのだが、これは検証のしようがなく、わからない。

<4> 隣の島根県を覗く

ここで肩を並べる島根県のデータも気になってきたので、同日のデータを同じような分類でまとめてみた。

島根県も一部の市に人口が集中している点では鳥取県と似ているが、鳥取県が四市なのに比べ八市で構成されている。島根県の各市は、江津市以外は400~600K m²の面積になって広さがそろっている感じがするが、人口は松江市の206千人から江津市の25千人まで様々である。

県庁所在地である松江市に人口が集中していて人口密度が1,254人/K m²となっているが、その他の市は300~500人/K m²で、鳥取県とよく似ている。

市部以外の面積は全体の36%だが、人口密度は22人/K m²で鳥取県に比してかなり「疎」な感じがする。

人口千人あたりの感染者数は、人口密度が高く人の往来も多いと見られる県庁所在地の松江市の高さが目立つが、さほどの広さでもなく人口密度でもない益田市がこれに肩を並べているのが不思議。そのほかの市は鳥取県とあまり変わらない表情をしている。

とは言っても、都道府県別の「人口千人あたりの感染者数」を見ると、松江市・益田市ほどに低い数値は見あたらない。

市町村		感染者数 (人)	人口千人あたりの 感染者数(人)	面積 (K m ²)	人口 (千人)	人口密度 (人/K m ²)
市 部	松江市	252	1.22	573	206	1,254
	出雲市	84	0.49	624	172	752
	益田市	55	1.15	733	48	525
	雲南市	34	0.87	553	39	339
	浜田市	26	0.45	691	58	399
	大田市	15	0.43	436	35	392
	安来市	14	0.36	421	39	409
	江津市	2	0.08	268	25	436
	市部小計	482	0.77	4,299	622	145
市部以外		44	0.81	2,409	54	22
居住地非公表						
県外在住者		25				
島根県合計		551	0.82	6,708	676	101
<参考>鳥取県		466	0.81	3,507	573	163

<5> 感染者が少ないのは何故か？

感染者数が少ないことに関係する要素は何か？他に何か関係しそうなデータはないだろうかと探し続けていたら、「都道府県別医療施設数」の一覧表が出てきた。病院と一般診療所の数を、「人口当たり」と「面積あたり」の二つの視点でまとめたものだった。

鳥取県と島根県の「人口10万人あたりの医療施設数」は他県に比べると多い部類に入ることがわかった。

医療施設数が多いと言うことは、医療従事者の数にもつながるわけで、人口10万人あたりの医療従事者の数は250人を超え、上位10県に入る。この二県は「医療の充実した県」の内に入るのではないかと。

<3>項で示した、「感染ルートの解明努力」がこんなことともつながっているのかもしれない。

	病院の数		一般診療所の数	
	人口10万人あたり	100K m ² あたり	人口10万人あたり	100K m ² あたり
鳥取県	7.7	4.9	89	57
島根県	7.5	4.4	103	57
<参考>全国	6.7	4.9	79	82
<参考>東京都	4.9	46.4	96	915

厚生労働省が出している令和二年の高齢者に関するデータを見ると、百才以上の高齢者は全国で80,450人になっている。これを人口10万人あたりの数に置き換えて、都道府県別に並べた表があった。

◆ 百才以上の人数(人口10万人あたり)

10万人あたりの人数(多い県)			10万人あたりの人数(少ない県)		
一位	島根県	127.6	一位	埼玉県	40.8
二位	高知県	119.8	二位	愛知県	41.8
三位	鳥取県	109.9	三位	千葉県	46.0
四位	鹿児島県	108.9	四位	大阪府	46.7
五位	山口県	100.5	五位	神奈川県	47.4

ここまで色々探り歩いて見た結果、「コロナ感染者数が少ないのは何故か？」の答は出なかった。

しかしながら、結びのページまで来て何となく匂ってくるがあった。

「医療の充実」があり、「健康への関心の高さ」があり、その結果「高齢者の多い県」が達成できたという読み取り方が出来る。またこれらが基盤となって、新しい病原の出現に対する「行政の取り組み姿勢」と「県民の受け止め姿勢」が他県とは異なるのかもしれないと感じた。

蛇足だが、「10万人あたりの百才以上の人数」でベスト3となっている県は、新型コロナウイルスの感染者数が少ない県であり、ワースト5に並んでいる県は感染者数が極めて多い県だということに気がついた。

偶然か必然かわからないが、何か気になる結末である。

以上

<付録資料>

鳥取県の感染者の感染ルート
(感染者番号-1～感染者番号-50 のみ抜粋し作表)

感染源(FROM)	性別	感染者番号	年齢代	感染先(TO)	
	男	1	60		
松江市のクラスター	男	2	50		
	男	3	20		
	男	4	30		
県外で感染者と接触	男	5	30		
	男	6	60		
	男	7	20	感染者-8	
感染者-7と接触	女	8	20	感染者-9	
感染者-7と接触	女	9	50		
	男	10	40	感染者-11	
感染者-10と接触	男	11	40	感染者-12、13、14	
感染者-11と接触	男	12	50	感染者-16	
感染者-11と接触	男	13	40		
感染者-11と接触	女	14	30		
	女	15	10		
感染者-12と接触	男	16	20	感染者-17、18	
感染者-16と接触	女	17	10		
感染者-16と接触	男	18	0		
県内感染者の接触	?	19	30		
県内感染者の接触	?	20	30		
	女	21	30		
	男	22	30		
県外で感染者と接触	男	23	30	感染者-24～34ほかと接触	建設工事のため県外から転入
感染者-23と接触	男	24	30	感染者-32～34と接触	
感染者-23と接触	男	25	40	感染者-32～35と接触	
感染者-23と接触	男	26	50	感染者-32～35と接触	
感染者-23と接触	男	27	20	感染者-32～35と接触	
感染者-23と接触	女	28	30	感染者-32～35と接触	
感染者-23と接触	男	29	30	感染者-32～35と接触	
感染者-23と接触	男	30	20	感染者-32～35と接触	
感染者-23と接触	男	31	30	感染者-32～35と接触	
感染者-23～31と接触	男	32	30	感染者-23～31と接触	
感染者-23～31と接触	男	33	30	感染者-23～32、34と接触	
感染者-23～33と接触	男	34	50	感染者-32と接触	
感染者-24～31と接触	男	35	20		
感染者の入院先医療従事者	女	36	50		
県外で感染者と接触	女	37	50		
県外で感染者と接触	女	38	20		
	女	39	60		
	男	40	60		
	男	41	60		
感染者-40と接触	男	42	70		
	?	43	70		
感染者-39と接触	女	44	60		
感染者-40と接触	男	45	70		
感染者-40と接触	?	46	60		
	?	47	60		
	?	48	40		
県外で感染者と接触	男	49	60		
県外で感染者と接触	女	50	60		